沖縄大学　二〇二二年度　一般選抜（中期）

国　語　解答例

問一　①序盤　②さが（し）　③陥（る）　④繊細な　⑤うんどうすいこう
⑥たど（る）　⑦合致　⑧ちんでん　⑨鮮烈な　⑩椅子
⑪駆け抜ける　⑫てい（する）　⑬弊害　⑭ちゅうちょ

問二　Aつまり、Bたしかに、Cしかも、Dそれだけに、Eとにかく、Fいわゆる

問三　イ

問四
瞬間的な感覚が「意味」や「明確な解答」をなすために、感覚が意識化して捉えられている必要があり、数学の定理がいつでも利用可能なように、瞬間的に生まれた感覚やイメージがいつでも利用可能であるようにすること。（一〇一字）
・型や技を数学的な比喩で捉え、「方程式」や「定理」といった数学的な比喩を感覚の技化に対して用いる文意をおさえているかどうか。

問五
意識と感覚をあたかも対立するものとして捉えるのが「癖」であり、意図と遂行とのあいだの合致が感得されるとき、世界は身体を通して了解されるのが「技」であり、「癖」は効果とは関係が無く、「技」は効果的である。（一〇一字）
・意識と感覚、意図と遂行、知覚と行為といった「技」と「癖」の差異を意識した指摘があること。

問六
教育はスポーツの上達と同じ構造をもっており、基本を設定して反復練習することの大切さを身をもって確信することが、学校教育の主たる目的と言えるであろう。何もできない状態からできるようになるために、膨大な反復を一人で行うことのできる人間は少ない。そのための緊張感を持続するには、他者の助けを必要とする。それが先生や友達であり、教室という空間である。学びを技化するには、そういった仕組みが重要であろう。（二〇一字）
・表記、字数（適切であるか）
・内容（文章で表現されている内容についてよく理解し、教育の問題として考えているかどうか）――思考の成立、つまり「基本」から「反復練習」という方法で「技化」が立ち上がること、「反復練習」の結果得られた学びについて記述すること）